

ジンコソーラー・ジャパン、三井住友銀行などからのシンジケートローンが67億円に増額

中国上海、2019年7月2日、世界の非常に革新力がある太陽光発電会社ジンコソーラー（NYSE：JKS）は、日本子会社のJinkoSolar Japan K.K. が今年6月の年次審査で2018年6月に締結した上限2年間、総額53億円のシンジケートローンが67億円に引き上げられたと発表した。

ジンコソーラー・ジャパンと締約を締結したのは三井住友銀行が幹事を務める銀行団（コンソーシアム）で、調達した資金は、ジンコソーラー・ジャパンの運転資金や、業務拡大に伴う費用に充てる。

三井住友銀行によるジンコソーラー・ジャパンへのシンジケートローンは、2016年から今年まで、4年連続で、融資の規模も回を追うごとに拡大してきている。「融資金額の増加は、銀行団が弊社未来の業務発展と長期的な成長に対する自信を表明し、またジンコソーラーの財務健康度と運営コンプライアンスを認めている。これから、弊社は日本でのブランド認知度と運営を引き続き強化し、急速な成長を遂げる日本市場を把握していきる。そして、三井住友銀行が幹事を務める銀行団との提携を深め、ジンコソーラーの事業成長を促進することを期待している。」とジンコソーラー首席財務官の曹海雲氏がコメントした。

ジンコソーラー（JinkoSolar Holding Co., Ltd.）について

ジンコソーラー（NYSE：JKS）は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。ジンコソーラーは中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦（UAE）、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他の諸国地域にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションとサービスを提供、販売。ジンコソーラーは2019年3月31日時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築して、生産能力につきまして、シリコンインゴットとウエハーが10.5GW、太陽電池が7.0GW、太陽光発電モジュールが11.0GWに達している。

ジンコソーラーは世界で6ヶ所の生産拠点があり、日本（2）シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オーストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦、15の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルー

マニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、加納、ケニア、南アフリカ、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員が1万2,000人以上を雇用しております。

【セーフハーバーステートメント】

このプレスリリースには、1933年米国証券法のセクション27A（その改正を含む）、1934年米国証券取引法のセクション21E（その改正を含む）、1995年米国民事証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act）で規定されている、「将来予想に関する記述」が含まれています。将来予想に関する記述には、「予想」、「確信」、「見込み」、「期待」、「将来性」、「意図」、「計画」、「推定」のほか、これらの類義語を用いたものが含まれることがあります。こうした記述は、実際の業績や結果が、この記述と大きく異なる要因が存在するリスクと不確実性があります。これらおよびその他のリスクの詳細については、年次報告書フォーム20-FとJinkoSolarのパブリック・ファイリングに含まれています。このプレスリリースに記載のすべての情報は、法律によって要求される場合を除き、JinkoSolarは、このプレスリリースの原稿の提供するいかなる資料は発表日を切って有効で、いかなる将来見通しに関する記述を更新たり、公に改訂する義務を負わないものとします。

投資者とメディアは下記と連絡してください：

Mr. Sebastian Liu

JinkoSolar Holding Co., Ltd.

Tel: +86 21 5183 3056